

会報 安曇野教育

第61号

発行所 安曇野市教育会
発行人 細 萱 稔
編集 会報委員会

発行日 平成30年11月30日
題字 川田 殖

「不易」に徹すれば、やがてそこから「流行」を生ずるといふものです。噛み砕いて言えば、「良い俳句を作るには、不変的な基礎をきちんと学ぶべき。しかし、時代の変化に沿った新しさを求めないと、陳腐でつまらない句しか作れない」ということです。

この「不易」と「流行」の関係は、俳諧の世界だけではなくあらゆる世界に当てはまります。基礎的知識、既存の考え方、不変のルール等を知らなければ何もできません。しかし、既存のものをただ踏襲してただけでは新しいものを生み出すことはできません。新しい考え方や知識などを加えていくことが必要とされます。

教育の世界も、まさにこの通りではないでしょうか。時代や社会の変化を無視し「今まで通りで良

「不易流行」 ～教育会の意義に ついて考える～ 常任副委員長 坂 槇 邦章



「教育会」なのです。今、教育の世界は

かつてない変革期を迎えています。時代も大きく変わろうとしています。時代も大きく変わろうとしています。時代も大きく変わろうとしています。

俳諧の世界に「不易流行」という言葉があります。「不易」は時代の新古を超越して不変なるもの、「流行」はその時々に応じて変化していくものを意味します。両者は本質的に対立するものではなく、「流行」を突き詰めればそれが自ら「不易」となり、また、「不易」に徹すれば、やがてそこから「流行」を生ずるといふものです。噛み砕いて言えば、「良い俳句を作るには、不変的な基礎をきちんと学ぶべき。しかし、時代の変化に沿った新しさを求めないと、陳腐でつまらない句しか作れない」ということです。

い」と既存の指導に固執してはダメ。逆に、新しさに翻弄され、教育の本質を無視して形だけの指導に変えていくのもダメ。不変性や本質を踏まえながら新しい変化を求めていくことが重要です。教師に「研究と修養」が求められている所以もそこにあります。そして、その「研究と修養の拠り所」として先輩たちが築いてきたのが「教育会」です。教育哲学や先人等の生き方から「教育の不変性や本質」を学び、実地巡検や視察から「新しい教育の流れ」を知り、それを「同好会や研究会等の主体的な研究活動」により深め、極めていく。それを保証してくれる場が「教育会」なのです。

安曇野の子どもを語る会

十月十三日(土)、南安曇教育文化会館で「安曇野の子どもを語る会」が開かれた。

を得た教育活動が図られる中、子どもたちが過ごす地区のコミュニティ力の低下を危惧する声も聞かれる。大人が地域行事に参加し顔見知りになることで、子どもの地域との結びつきも強くなるという意見が昨年度出されたことを受け、「子どもの体験活動に関する調査研究二〇一〇」の資料をもとに、子どもたち(特に小学校高学年・中学生以降)の地域活動への参加が大切であることを示した。

安曇野市教育長の橋渡勝也先生は、「昨年度より始まった『安曇野市コミュニティスクール事業』(以下ACS)では様々な活動を展開している。さらに広めていき、多くの人に学校に来てもらいたい。災害などでも学校が避難所となるが、非常時のためにも、地域と結びついた関係作りを大切にしたい。未来を背負う子どもたちがたくましく育つためのよい話し合いができるといい」と話された。

分散会では、①地域としてのどのような活動、取り組みが進められているか、またその成果と課題、②この地域ならではの活動、子どもと地域の方々が共にやりがいや生きがいを感じられるような活動はどんなものがあるか、の二点について話し合われた。

次に、窪田博之常任委員が基調提案を行った。本年度の討議の柱は、昨年度に引き続き「地域ならではの活動と教育」安曇野の地域を生かして、子どもたちをどう育てるかである。

ACS事業が始まり、地域のみなさんが学校運営に参画し、学校支援に積極的に関わり、学校評価を共に進めていけるような体制が整ってきた。ACS事業では、学校と地域、子どもたちと地域の方々相互に関わりながら、互いに拠り所となるような関係づくりを目指している。また、地域の方たちの協力をまとめた。

各分散会の様子



【第一分散会】

それぞれの地域の小中学校での活動や取り組みが紹介され、その積み重ねから地元を愛する気持ちが育っているように感じるといってお話があった。一方で、地区の活動への参加の減少、時間的な制約、地域や地区による差、講師の高齢化などの課題が見えてきた。

グループ討議では、課題をふまえて、これから取り組みたい活動が話し合われた。安曇野ならではの活動を知り合えるよう、「スクールフェスティバル」と題した交流・発表の場作り。既に取り組む地域もある、子どもたちも実働的に関わる「地域と学校が連携した防災活動」。そして、「地域のこ

とをもっと知る仕組みを作ろう」「任意の『おやじの会』を立ち上げよう」。まず集まってネットワークをつくり、できそうなことを見つけて取り組むこと、組織を作っていくことで活動を続けていけるのではと展望が語られた。

【第二分散会】

地域の方々の支援は見守り隊から組み体操などの専門的な学習支援まで幅広く、多くの方が積極的に関わってくださっている。子どもたちにとっても身近で信頼

できる存在であり、その支援により諸活動が活発になっている。これらの経験が子どもたちの糧となり、高校から進学する際の面接や進路に生かされた事例もあった。今後、相互間の継続的な連携や関わり方の工夫、個々小集団から全体への輪の広がりや他地域との繋がり等を一層高めていきたいという願いも出された。

グループ討議では、これから取り組むたいことについて、優先順位を考えながら話し合った。どのグループも意気投合し、「地域の良さを発信できる子どもの育成」をめざし、自然体験(登山、農業、食育、観光、資源など)や高齢者支援を経験させていきたいという思いを語り合った。

【第三分散会】

まず、地域との関わりについて報告をし合った。各学校では地域の方と協力して、りんご栽培や米作り、クラブ活動などそれぞれ地域の文化や特色に合わせた活動を行っていることが分かった。地域の方は学校に来ることが嬉しいと感じ、また子どもたちも活動を楽しみにしているなどお互いよい関係作りができていることが共通して話題に上がった。一方で、活動を知らない子ども・保護者が、ボランティアの方をよく認識していないという問題点も出された。学校が橋渡しとなり、お互いのことをよく知る機会を増やしていくべきだと提言された。

グループ討議では、少人数で活発に意見交換が行われた。その中で防災活動・地域の文化的行事への参加を一緒に行えたらという意見や、幼年から高校生までの縦のつながり、子どもと地域との横のつながりを大切に、まとまりのある組織作りを目指したいという意見が出された。学校、地域のつながりを大切にし、地域に愛着を持つ子どもたちの育成を目指していきたいとまとめられた。

【第四分散会】

それぞれの立場から活動内容

とその成果、課題を報告した。学校関係では、行事やクラブ活動などそれぞれの学校で特色ある活動を行っていること、そこへPTAや地域の方々をボランティアのよきな形でお呼びして体験活動を中心に行っている様子が紹介された。この活動から、子どもたちはその専門性に触れ、楽しさや新たな発見をし、それが次への活動意欲につながっているようである。地域や行政の方からは、ソバの栽培活動など自然に触れ合う体験活動を企画運営している様子の報告があった。実際に体を使って体験することで有意義な活動になっているようである。また、社会体育と地域の活動が重ならないように調整も行い、それぞれの活動に参加しやすいうように配慮していることも報告があった。課題としては、地域の活動の後継者不足や活動への参加者が少ないことなどがあげられた。

グループ討議では、報告があったことからテーマを決め話し合いをした。地域と連携した防災訓練やあいさつを交わしあえる地域にしたいなど子どもたちのより良い育成に向けての話題が話し合われた。最後に、今後も地域と学校など我々大人が協力しながら、子どもたちを見守り育んでいくことが大切であるとまとめられた。

【第五分散会】

教職員、保護者、地域のコーディネーターの方々から、各校の取り組みや子どもたちの様子、よさと課題について報告があった。小学校では米作りや学校行事、学習指導や放課後児童クラブなどで支援していただく例が挙げられた。中学校では地域学習や職場体験学習での講師としての支援や、地域と連携した防災訓練の活動などが紹介された。

不審者情報が多い中、子どもたちへの声かけが難しいという課題も挙げられたが、根気よくあいさつを続け、地域から安曇野を盛り上げていこうと確認した。



安曇野往来

登龍門

天龍村立天龍中学校
校長 酒井 健次



安曇野市教育会創立百三十周年おめでとうございます。

私は南安曇教育会に仲間入りさせていただき、今日まで諸先輩や会員の皆様に育てていただきました。本拠地を安曇野にしたのは私にとって安曇野市教育会の存在が大きいからでもあります。益々の発展に少しでも恩返しをしなくてはと思うところです。

私は「信州に春を告げる村」がキャッチフレーズの県南の地天龍村に赴任し二年目となりました。五月初旬の「長野県のトップを切

るブル開き」が毎年ニュースになる中学校です。五十回記念を迎える「天龍梅花駅伝大会」に関わった総合的な学習や東京オリパラに向けて今年度立ち上げた「ハンガープロジェクト」をマスコミに取り上げていただいております。全校生徒十三名で複式学級対象校という極小規模校で課題も多いですが、先生方や生徒たちと共にエネルギーに活動しています。

本校の通用門に、「登龍門」という詩碑があります。「天龍に通う生徒たちは鯉である。この龍門をくぐった鯉たちは、厳しい社会に出て活躍する糸口をつかむために必死になって勉強し、立派な人間になることを目指す。やがて龍となり、目標に向かって天高く飛び立つて行くことを願うものである」と書かれています。村民の願いや期待の表れであり、実際に社会へ出ていく若者のために惜しみないバックアップをしてくださっています。地域から頼られる中学生を育てたいと願い取り組んでおりますが、中でも学校支援システムや防災教育については安曇野市で学んだ事が大変参考になっております。安曇野に感謝しつつ、今は下伊那の山間地教育に全力で取り組んでいる毎日です。

変化著しい
特別支援学校

長野県小諸養護学校
教頭 中島 勇吾



小諸養護学校は、浅間山の麓、小諸市にある知的障害特別支援学校です。小諸市と言っても佐久平駅まで五分ちよつとという場所にあり、佐久ICなども近く、交通の便の良いところにあります。

私は昨年、この小諸養護学校に十五年ぶりに赴任しました。それまでの十四年間、中学校にいたので、特別支援学校に籍を置くのも十五年ぶりでした。校舎や校章など多くのものがそのままでも懐かしく感じました。その中でも大好きだった校歌を聞き、うれし

くてすぐ歌うことができました。ですが、大きく変わっていることもたくさんあることにすぐに気が付きました。それは、障がいがある子どもたちやその家庭を取り巻く社会環境です。放課後デイサービスやショートステイなどのサービスが充実し、相談支援員の方が家庭支援の方向を示してくださるようになっていきます。昔にはなかった事で、赴任当初はただただ感心するばかりでした。

当時担任した生徒に文化祭や現場実習の巡回指導で会うことがあります。みんな歳をとっていいおじさん、おばさんですが、少し話をするときと変わらぬ笑顔を見せてくれます。そんな時、あのころこんなサービスや仕組みがあれば喜んだらうな、と思う子どもや保護者の顔が浮かんできます。また、学校を卒業するまでにもつと社会とつながることができたのではないかとこの反省もあります。そんなことを思いつつ、今、目の前にいる児童生徒にとって、より生きやすく、より過ごしやすい学校生活、そしてその後の社会につながる支援ができるよう、先生方や保護者の皆様に寄り添っていきたいと思う今日この頃です。

子どもたちの笑顔
のために

長野県教育委員会事務局
心の支援課

林 邦彦



私が勤務する心の支援課では、生徒指導、人権教育、学校生活における相談及び支援に関することを担当しています。施策の一つとして、不登校や不登校傾向等の中学生の高校進学を支援するため、中学生およびその保護者を対象とした「不登校や不登校傾向の中学生・保護者のための高校進学説明会」を県下で毎年開催しています。昨年度の参加者数・校（延べ）は生徒二二九人、保護者他五四三人、公立百三十六校、私立百十二校と大変多くの参加がありました。各高校のブースでは、次第に

明るい表情になっていく生徒や、話を聞いて励まされ涙を流している保護者の姿が見られます。少し離れた場所で心配そうに見守る学校の先生がいます。閉会時刻を過ぎてもブースの列は途切れません。「今まで進学についても、将来についてもあきらめていたのですが、可能性が見えてきました。本日は参加でき本当によかったです。ありがとうございました」（参加保護者の声）。支援課での業務は、日頃子どもと接する機会は少ないのですが、この会での子どもや保護者の前向きな表情を見て、少しでも役に立てたのではないかと実感できる瞬間です。



不登校やいじめに加え、困難な家庭環境など、子どもが抱える問題が多様化・深刻化が進んでいると言われる中、解決に時間がかかる生徒指導上の課題が年々増加していることを実感しています。悩んでいる子どもや保護者、生徒指導に奮闘されている先生方の力になれるよう、安曇野で学んだことを糧にし、微力ながら尽力してまわりたいと思います。

開校五年目を迎えた諏訪清陵高等学校附属中学校に勤務するようになって、三年になります。本校では、明治二十八年以来の伝統に培われた「高い学力」「広い視野」「強い意志」を基礎に、二十一世紀の社会に貢献できる優れた人材を育成することを教育目標に掲げ、「実物に触れ、自分の頭で考える」「三澤勝衛先生の教育をもとにした体験的・課題探究的な学習や「ローカル・グローバル、サイエンス、キャリア」の視点から「ジャーナル、ディベート、リサーチ」の手法を用いて追究するアカデミック・コミュニケーション

挑戦し続ける

長野県諏訪清陵高等学校
附属中学校
教諭 矢野口まどか



ン（総合的な学習の時間）など、特色ある教育活動に力を入れています。

また、「気づく・学ぶ・活動する・考える・まとめる」を組み入れた六十五分授業を実施しています。英語科として生徒の実態を捉えたとき、正確な英文を書く力と、即興で英語を話す力をさらに伸ばしたいと考えました。帯活動で、新出語句を使ってできるだけたくさん英文をつくったり、スクリーンに示された写真やイラストについて即興で会話をしたりすることを取り入れるようになりました。

他教科、他学年を担当され、ご自身の校務があるにもかかわらず、授業や生徒指導など、多岐に渡り、アドバイスをくださる先生がいらつしやいます。最初に必ず「先生は、どう考えている？」と尋ねてくださるおかげで、自分の力で職務を全うしようとする強い意志と、失敗しても新しいことに挑戦し続けようという自信を持ち続けることができました。

この学校で挑戦してきたことを安曇野に戻ったときに実践できるように、今後も一歩ずつ邁進していきたいと考えています。

各種委員会からの報告

【教育課題委員会】

（体力向上推進委員会）

本委員会は、市体力向上推進委員会を兼ね、①健康や体力・運動能力の現状理解と課題や原因の検討②健康・体力・運動能力の向上や生活改善のための具体的な方法の検討と提言③幼保小中が連携して取り組む方策の検討と提言を目的として活動してきました。

本年度は、今までの実践を振り返ったり結果の検証をしたりしながら、四年分のまとめをしています。体力向上のために必要なことをわかりやすくまとめて皆さんに知っていただき、少しずつでも実践することにつながればと考えています。まとめや公表は、「調査研究のあしあと」と及び三月の「広報あづみの」等を予定しています。

【図書館教育委員会】

（豊科南中）

図書館教育委員会をより充実させていくため、学校図書館にかかわる司書や司書教諭が連携し、情報を交換する会を持ったため、安曇野市学校図書館協議会を本年度も開催することができました。また本年度は、公共図書館の司書の方々にもご参加いただき、新たな連携を結ぶことができました。

【人権教育委員会】

（穂高西中）

本委員会では、委員の所属する学校での人権教育の取り組みや実践について、資料を持ち寄り、情報交換しています。持ち寄った事例の中から学年や内容等を配慮しながら人権教育実践資料集に追加する事例を選び、資料を作成しています。

また本年度も市内各校の人権教育担当の先生方にご協力いただき、「活用した視聴覚教材」「読み聞かせや資料として利用した書籍」についてのアンケート調査を実施しました。まとめて各校に配布させていただきます。ぜひ来年度以降の人権教育で活用ください。

七月五日、講師にポプラ社の木小太郎さんをお招きし、堀金小学校にて「百科事典を使いこなそう」ポプラ社の出張授業（五年一組授業者 教諭）の公開授業を行いました。その後、斉木さんによる、ポプラディアに関する話を中心とした講演をお聞

きました。講演の中で、参加者から寄せられた質問にも丁寧に答えていただきました。百科事典を活用した授業展開について様々なヒントをいただいた素晴らしい機会となりました。

(穂高東中)

【環境教育委員会】

本年度の活動の柱は、次の三つです。まず、十月開催の「あづみの環境フェア」にて、明科中の総合の時間「ホームタウン明科 自然観察講座」の学習の様子を発表し、環境学習への取り組みについて市民の皆様を知っていただきました。そして、環境教育に関わる授業実践研究として、同じく明科中の「自然観察講座」の中の地球温暖化の授業を参観させていただきました。今後その様子をまとめ、報告いたします。

また、「エコアクション21」に関わって環境教育委員として市の研修会や内部監査に参加しました。本年度は各校の取り組みの様子をお互いを知るために「プラン」を集め、まとめる予定でいます。

(豊科南中)

【社会科資料集編集委員会】

安曇野巡検は、「目で見て触れ」とテーマを設け、世界かんが

い施設遺産となった拾ヶ堰を巡りました。拾ヶ堰土地改良区の青柳和義さんと穂高南小学校の千村裕一先生に講師をお願いして、拾ヶ堰の概略をお聞きし、拾ヶ堰入り口にある島内取水口施設の見学をはじめ、梓川サイフォンや自転車広場での勘左衛門堰との速さの違い、万水川との交差する排水施設、更にウォッチマンゲートなどを見学しました。世界かんがい施設遺産となった拾ヶ堰を体感していただけたと思います。多くの皆様のご参加ありがとうございました。

来年度の改訂にあたり、委員一丸となって取り組んでいます。ご協力よろしくお願います。

(明北小)

【人物読み物委員会】

本委員会では、教育会のホームページ「安曇野の偉人」を充実させるべく、先人たちについての調査活動を行っています。本年度は、藤森寿平、中島輪兵衛、山口蒼輪、青木祥二郎、山本安曇、藤森秀夫の六人を取りあげ、その業績を知るための資料作成を進めています。

八月には地域史研究家の先生を講師にお迎えし、資料完成に向けて、資料の細部までご指導いただきました。多岐にわたる業績をいかにわかりやすくまと

めて提示するか腐心しています。先生方に地域教材の一助としてご活用いただけますように、今後も努めて参ります。

(豊科北中)

【キャリア教育委員会】

平成三十年度版「進路学習資料集」の編集・頒布とキャリア教育の調査・研究の二つを中心に活動しています。

「進路学習資料集」の編集では、小規模ながらいくつかの高校で改定がありました。それらを含む県内各高校の最新情報や先輩達からのメッセージ等を掲載しました。また、進路指導の学習に役立つページも掲載し、主に中学二年生での活用を想定して作成しました。

キャリア教育の調査・研究では、実践事例をキャリア教育の四つの視点に基づきレポートにまとめています。

(穂高東中)

【木村素衛委員会】

本年度素衛委員会では、日記No. 四十四(昭和十六年二月、昭和二十年十一月)の判読作業を行っています。先生の日記は、日付と天気から始まって、その日のできごとや感じたことなどが細かく記されています。哲学についての考え

なども含まれており、難解な部分も多々ありますが、木村先生の日々の暮らしの様子やものの見方、考え方に触れることができ、読み進めていくうちに、先生への親近感も増していきます。

本年度も委員八人で協力して判読作業を行い、二月に最終校正を行う予定です。

(三郷小)

【郷土文化財センター運営委員会】

所蔵品の管理と紹介、そして郷土文化財センターの新リーフレットづくりに重点をおき活動しています。

パンフレットは、掲載写真の肖像権の確認を終え、もうすぐ完成します。また所蔵品を会報「安曇野教育」に毎号掲載し、郷土文化財センターの広報活動をしています。さらに、豊科郷土博物館と共催をして企画展を行っています。

本年度は安曇野市児童生徒「ものづくり展」に合わせて、「一人だけの空間 あなたはどう使う?」と究極のリサイクル「昔の廁」というタイトルでトイレの歴史について、開催いたしました。

(穂高西中)

【創造力】
夏休み中に行われた実技講習会世話係として「図工・美術」に参加した。専門教科でもなく、これまで希望することもなかった。一日たつぷりと研修でき、充実した時間となった。

作りたいものを考えてもいなかった。最初は周りの方たちが作り始める様子に感じつつ、久しぶりに触る粘土の感触を楽しみながら想像をふくらませた。作りたいものを決め、粘土に向かう。気がつくやうに夢中になって作っていた。午前中に二枚の小皿を作り、昼食。作る楽しさを味わえると「今度はもっとこうしたい」と意欲がわいてくる。午後は違う粘土、手法で花瓶を作ってみた。自分の世界の中に入り込んで続け、あっという間に時間が過ぎていった。

参加された先生方の個性的な作品を見せていただけたのも、自分にはない想像力に触れられた。一ヶ月後にでき上がった作品を見て、これまた想像を超える色合いに出会え、陶芸の面白さを味わった。

(穂高南小)

【**展覧会運営委員会**】

本委員会では、市内小中学生の学習の成果を発表する場として、次の活動を行ってきました。

【科学展・書道展・図工美術展】

○各校に作品を募集するとともに多くの先生方に審査員をお願いし、市内巡回展の作品審査を行いました。

○市内巡回展

科学展：十月～十二月

書道展：十月～十二月

図工美術展：十一月～一月

それぞれの入選作品が、各学校を巡回しています。学習の成果を確かめ合っていただけだと思います。

【市内児童生徒ものづくり展】

○教育文化会館大会議室にて十月三十一日から十一月五日までの六日間、開催しました。

各校児童生徒より寄せられた、家庭科・技術科・図画工作科・美術家科などの作品と、県展・今を生きる子どもの絵展(図工美術)の地方入選作品を展示し、児童生徒の皆さん、保護者の皆様を中心にご覧いただきました。

(三郷中)

【**会誌委員会**】

本委員会は、二月下旬に、会誌「安曇野教育」第十三号の発行を

計画しています。本年度は教育会百三十周年記念号として内容について少し工夫を加えています。現在、執筆していただいた原稿の校正や巻頭座談会の準備等を行っています。

本号の巻頭座談会では「これからの教職員に求められる資質と教育会の役割」というテーマで、篠崎医院豊科診療所院長の東孝博先生や教育委員会、市PTA連合会の皆さんと小中学校の先生方に討議していただきます。一昨年度からスタートしたシリーズ「安曇野遺産」も続きます。また「先輩こんにちば」では、穂高北小学校の地域コーディネーター古川元亮さんからお話をうかがいました。

(豊科南小)

【**会報委員会**】

教育会の活動を取材し、昨年度同様四回(六・九・十二・三月)の会報発行を予定しています。また、定時総会で決定したことを速報という形で発行しました。総集

会や安曇野の子どもを語る会など教育会の活動の様子とともに、会員の皆さんが互いの活動内容を知る機会になればと考え、各種委員会や実技講習会、同好会の活動について紹介しています。郷土文化財センター運営委員会にご協力を

ただいている「郷土の文化財」や校長先生方に執筆いただく「東西北北」も引き続き連載しています。

今後も教育会の機関紙としての使命を果たすため、会員の皆さんに情報を提供していきたいと思えます。これまで執筆にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

(豊科南小)

【**情報委員会**】

情報委員会では、本年度も安曇野市教育会ウェブページの更新作業を中心に活動しています。特に会報の掲載では、個人情報に配慮して修正し、できる限り迅速に情報提供できるように心がけています。安曇野市教育会の会員はもちろん、より多くの方々にとって役立つ内容になるようなウェブページ制作を目指したいと考えています。掲載希望の原稿等ありましたらご相談ください。

各校とも各校ホームページの情報更新にはご尽力いただいていることと思います。負担にならない範囲で、引き続きよろしくお願います。

(穂高西小)

郷土の文化財 41

豊科郷土博物館共催企画

「郷土文化財センターの蔵書③」

郷土文化財センターの中に収蔵されている書籍を紹介するシリーズ第三回は、「荻原碌山に関する書物」です。

郷土が生んだ偉大な芸術家荻原碌山の生涯や数々の作品を掲載した本が収蔵されています。南安曇教育会が編集に関わっており、小学生にも読みやすく、分かりやすいものです。郷土学習の際に活用してみたいかがでしょうか。

本年度は、センター内の書籍について紹介してきましたが、まだまだたくさん書籍が収蔵されています。ぜひ一度、足を運んでみてください。魅力的な蔵書の一冊一冊が、手に取られ読まれることを待っています。

(郷土文化財センター運営委員会)



編集後記

「安曇野往来」では、安曇野を故郷とされる先生方から原稿を寄せいただきました。それぞれの地で、子どもたちや地域の方々

ともに生き生きと活躍されている様子が伝わってきました。

また、今号では「安曇野の子どもを語る会」や各種委員会の取り組みについてもお伝えすることができました。ご協力ありがとうございました。